

女優

内山理名

澄んだ瞳でまっすぐ相手に心を傾ける内山さん。見る人の心を和ませる美しい笑顔で、主演をつとめる舞台、タクフェス「ターゆうー」について語っていただきました。

人の喜ぶ顔を
見るのが好きなんです



——7月に東京の公演からスタートする、俳優の宅間孝行さん脚本 演出の舞台、タクフェス「ターゆう」で、主役を演じられる内山さん。どんな役どころなのでしょう。

「物語の舞台は、日本が好景気にわいていた1980年代の長崎。とある民宿に住む二兄弟の次男坊・元弥もとやに恋心を寄せる、幼なじみの夕という女子高生が主人公です。でも、彼は夕の親友・薫に夢中。夕は、明るく振舞いながらも、募る思いを打ち明けられずに人知れず胸を傷めるといふ、まさに青春まっただ中にある女の子、という役どころです」

——これぞ初恋、という感じですね。

「初恋って、後から思い返すと『青春時代の甘酸っぱい、いい思い出』と受け止められますけど、その渦中にあるときはかなり苦しいですよ。元弥や薫を含めた仲間たちはみんな愉快で心優しいから、夕は彼らのことが大好きです。でも、それだけに切ない。」

——大人になるにつれ、そうした純粋な気持ちを忘れてしまいがちです。でも、内山さんが演じられる夕を見て、胸がチクリとしたりドキドキしたり、涙があふれてしまう人は少なくない

——んじゃないでしょうか。

「中高生の頃って感情の振幅が大きいというか、感受性が強くて、恋以外のことでもしよっちゅう泣いたり笑ったりしていたような気がします。でも、たしかに大人になるに従って、そんなふうになんか大きく動くことって少なくなりますよね」

——それはつまり、自分で自分の心をコントロールできるようになったわけで、いいことなのだと思いますが、その反面、ちよつとさびしいような気もします。

「ええ。でも、今回の舞台を



心と体を

フラットにしておきたい



うちやま りな*1981年、神奈川県生まれ。ドラマ「大奥～華の乱」 映画「嫌われ松子の一生」、舞台「リア王」など、数多くのドラマや映画、舞台に出演。

観ていただいたらきつと、青春時代のように心の底から笑ったり泣いたりできると思います。

この「ターゆうー」という作品は、2003年の初演時から「笑って泣ける舞台」として話題となった大人気のお芝居なのですが、これに限らず宅間さんの作品というのは、観る人の心をつかむんです。感動って、こういうことをいうんだなというくらい、心が大きく揺さぶられるというか。私自身、宅間さんのお芝居を初めて観たときにそれを体験しました。おかしいシーンでは役者もお客さんも 緒になつて、はじけるように笑う。逆に悲しいシーンでは劇場全体が、水を打ったように静まり返ると

いうように、その場の空気が瞬にしてガラリと変わるんですね。だから観ている人の心も大きく動くわけですが、舞台の上になんたろう、私も演じてみたいと思っていました」

——今回、その願いがかなったのですね。

「ええ。それだけに緊張しますし、大人気のお芝居の再演ということでプレッシャーも感じます。でも、宅間さんはじめ共演者の方に支えていただきながら、みんなで一丸となつて「いい作品にしよう」と稽古を重ねていますし、何より私自身、夕

という役を楽しんでいるのできつと大丈夫。観てくださった方には楽しんでいただけると信じています」

——観客は、お芝居を観て、楽しいひとときを過ごして劇場を後にする。役者さんというのは、人に「感動」をプレゼントできる素敵な仕事ですね。

「舞台でも映画でもテレビドラマでも、「よかったよ」「楽しかった」と言っていたんだけど、素直にうれいんですね。自分のしたことを誰かに喜んでもらえるというのが、私の生きがいです。いいお仕事をさせていただいているなど、改めて思つてい

ます」

——プレゼントといえは、内山さんは「贈り物好き」だとか？

「ええ。あの人はこれが好き、という情報を手に入れると、覚えておいて次に会ったときにプレゼントする。そのときの相手の喜ぶ顔を見るのが好きなんです。というのも、自分がそうされてすぐうれしかったから。たとえば、私はお風呂が大好きなのですが、そのことをどこかで知った人があるとき、入浴剤をくださったんですね。その、入浴剤自体もですけど、「たしかあの人、お風呂が好きだと言っていたな」と私のことを思い

浮かべてもらったことがありますが、たくて、うれしい。だから私も、同じようにして、相手に喜んでもらえたらと。わざわざ誰かに何かを「してあげなくちゃ」というより、「こうしたい」と自分の心の中に自然とわいてくる気持ちや相手に伝わったときは、心がふわっと温かくなるんです。ほとんど自己満足なので、けれど、やめられません(笑)」

——ご自身の満足のために何かやっていたらっしゃることはありますか？

「プライベートではヨガかな。ヨガをすると、心と体のバランスを取れるようになって心身と

もにフラットになります。私は、これからもいろいろな役柄を演じてみたいと思っっているのですが、そのためにも心と体を、何でも対応できるようにフラットな状態にしておきたい。その意味でも、ヨガを続けながら新しいことにどんどん挑戦していきたい。そう思っています」



タクフェス「夕 ゆう」

7月3日(木)~7月21日(月)サンシャイン劇場 7月に新潟、8月に大阪 仙台 名古屋、9月に札幌でも上演

作・脚本 宅間孝行 演出 内山理名、上原多香子、高橋光臣、阿部力、宅間孝行 ほか

企画 サンライズプロモーション東京 0570-00-3337